

**\*ツァイス製のガラススケール(?) のようなものを発見**

26 吋(65cm)望遠鏡ドーム 1 階の倉庫に使っているところから、見つかったとアーカイブ室にキャボネサイズ大のガラスプレートが5枚入った古い木箱(写真1)が持ち込まれた。



写真1 木箱

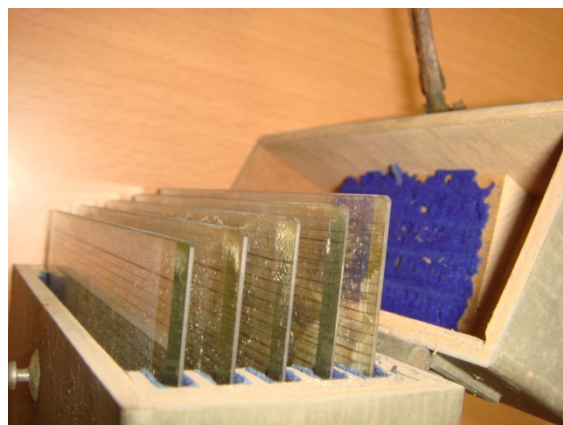


写真2 蓋を開いたところ

中に入っているものは同じガラスプレートでガラススケールのように見える(写真3)。

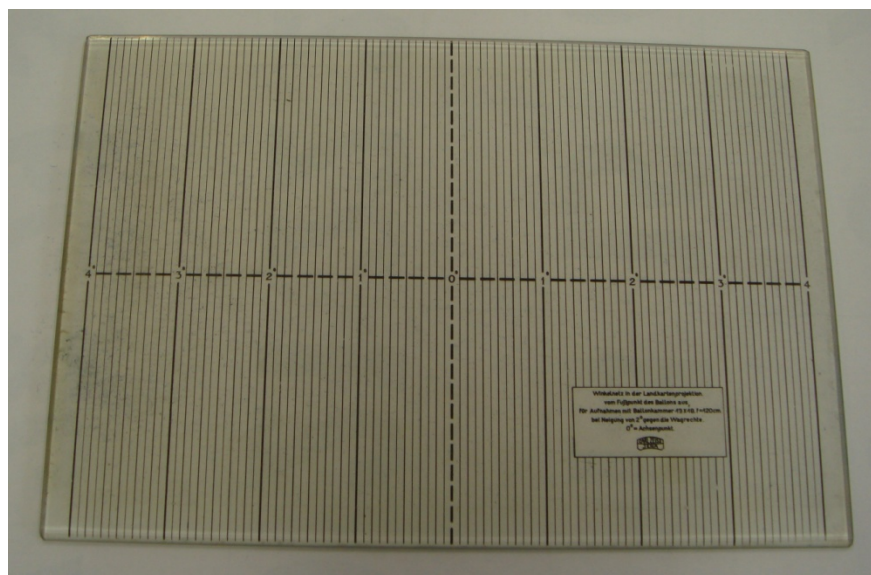


写真3 ガラススケールのように見える

大きさは、12x18cm、厚さ 2mm のガラス板に太い点線の十字線があり、中心を  $0^\circ$ 、左右に  $4^\circ$ 、 $3^\circ$ 、 $2^\circ$ 、 $1^\circ$ 、 $0^\circ$ 、 $1^\circ$ 、 $2^\circ$ 、 $3^\circ$ 、 $4^\circ$  の目盛がふってあり、 $1^\circ$  が6等分され、その間に少し細かい線で2等分され、12等分の縦線が入っている。 $-4^\circ \sim 4^\circ$  の間隔は172mmである。そして右下にはドイツ語で説明のようなものが書かれ、CARL ZEISS JENA のマークが入っているがまったく筆者には意味不明である(写真4)。

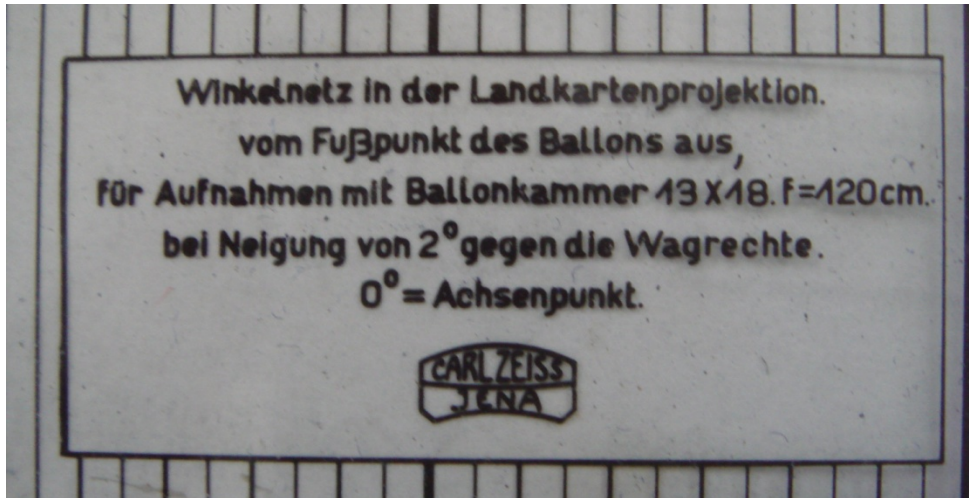


写真4 筆者には判読できないドイツ語文

この木箱には工夫が凝らされていて、写真2に見るように前列から後列に向かってガラス板がだんだん高くなるようになっており、蓋には斜めの押え具が備えられている(写真5)。

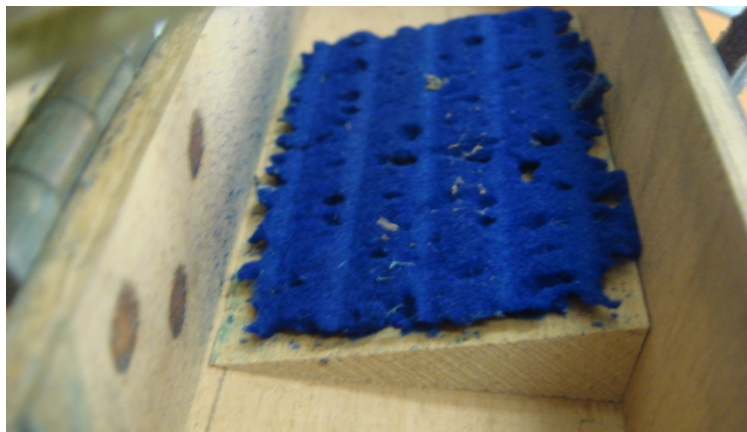


写真5 押えの細工

またガラスの上面の上下には直線定規に見られる縁取りがしてある(写真6)。



写真6 ガラスの上下の端面

これは ZEISS 製の望遠鏡のカメラの乾板取り枠に入れて、天体の位置を測定する道具で

はないかと思われるが、このガラスプレートが入る乾板ホルダーはまだ探していない。

ドイツ語の説明については、ドイツ在住の元国立天文台長であった小平先生に照会している。読者の中にドイツ語に堪能な方がいらっしゃれば、ご教授いただけるとありがたい。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)